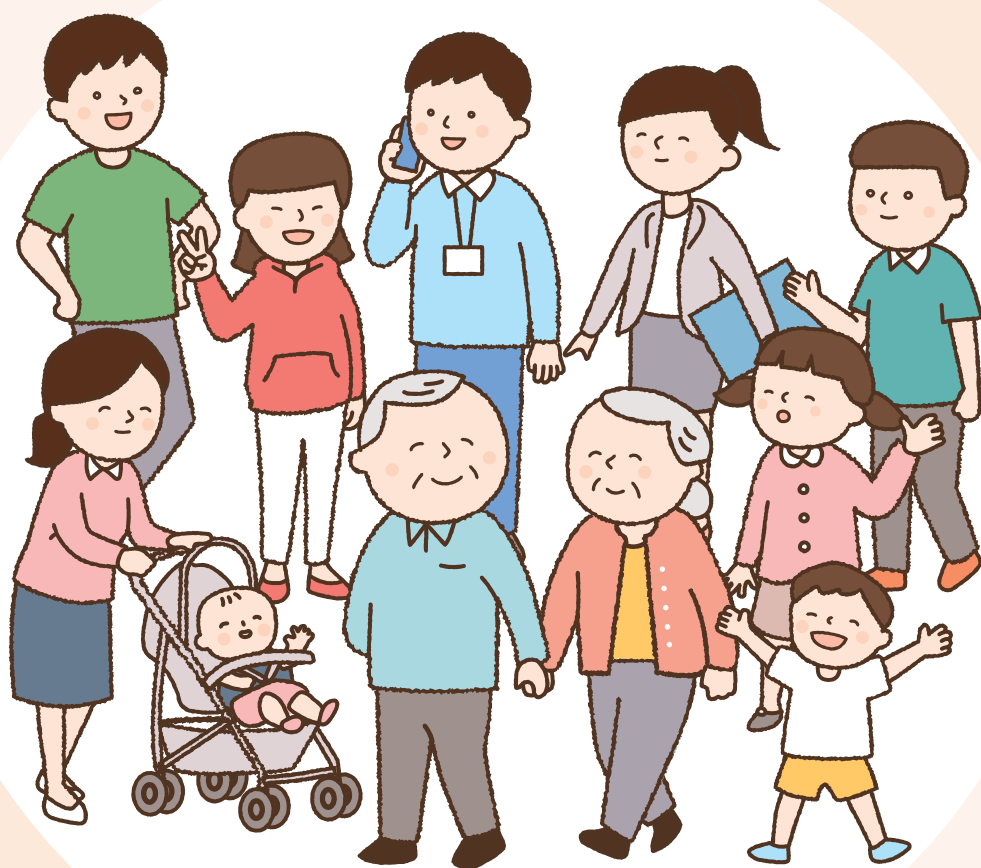


岡山市の チームオレンジ



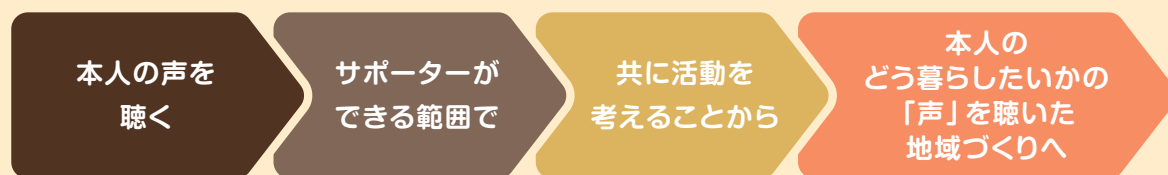
つながって、ひろがって
認知症と生きるまちづくり

チームオレンジとは？



認知症になってからも自分らしい暮らしを続けることができるようソフト・ハード面のバリアを減らしていく取組を進め、地域、企業、医療福祉も含めた関係者と協力し、認知症の人の「声」を聴いた地域づくりをしています。

チームオレンジを通じて「当事者・家族」が「自分の希望」を「地域で発信できる」よう活動をすすめています。

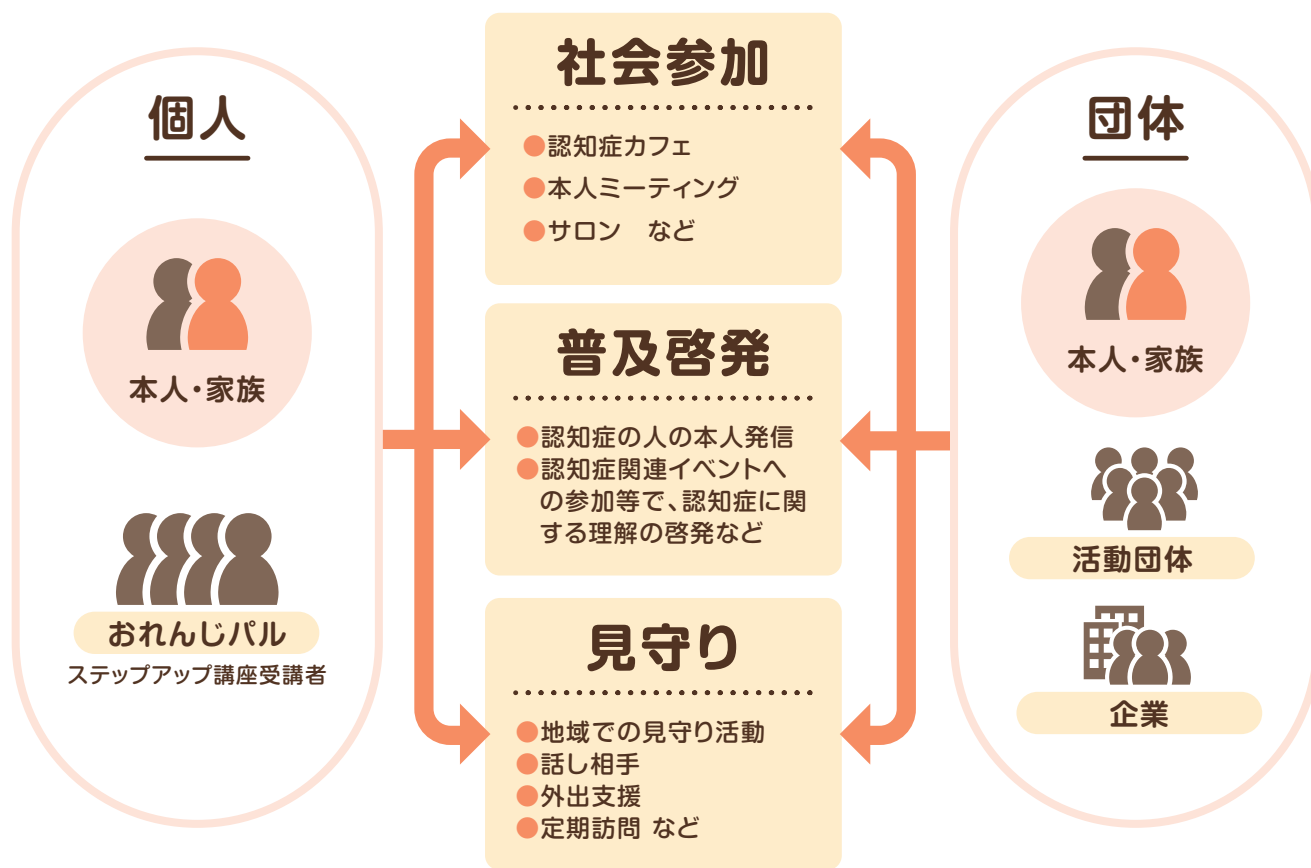


チームオレンジで目指すこと



岡山市のチームオレンジ (イメージ図)

— 活動例 —



地域の関係機関 ● 地域包括支援センター ● ケアマネジャー ● 民生委員 ● 社会福祉協議会 等

チームオレンジ 立ち上げの流れ

- 1 認知症の人とその家族の「声」**
自分らしく暮らすには何が必要か。認知症になっても好きなことや、やりたいことをあきらめないために、本人、その家族の声を聴くことから始めます。
- 2 ステップアップ講座（おれんじパル養成講座）**
認知症サポーターから一歩進み、認知症の人や家族とともに活動したい、理解を醸成したい、そんな人たちが学びを深めます。受講後に希望者はおれんじパルとして登録します。
- 3 仲間とのマッチング**
認知症の人とその家族の声と、地域にいるおれんじパルの活動がつながりを作り、やりたいこと、できることに向けてともに考えていきます。
- 4 一緒に活動をスタート!**



● **認知症サポーター**
地域で、自分のできる範囲で認知症の人とその家族を見守り支える応援者

● **おれんじパル**
②の講座受講後、チームオレンジに参加し、認知症本人や家族の声を活かした活動やネットワークづくり、啓発に当事者とともに取り組む人

● チームオレンジの立ち上げや活動に関する相談などがあれば、チームオレンジコーディネーターがサポートします。

連絡先 ▶ 岡山市ふれあい公社地域包括支援課
☎086-274-5136

「認知症を正しく理解し、自分にできることを考える」普及啓発活動

■ 認知症サポートリーダー富山会・岡山市立富山公民館

世代間交流を通して、安心して声かけし合える地域づくりを



メンバーが協力し、誰にでもわかりやすい言葉で認知症を説明した



地元の小学生による紙芝居の様子

「認知症サポートリーダー富山会」では、岡山市立富山公民館と連携し、毎月認知症カフェを開催しています。この日は「認知症ってなあに？」をテーマに、認知症サポーター養成講座が開かれ、会場には小学生から高校生の若い世代、地域の高齢者など多世代95名が参加しました。講師は同会のメンバーが務め、紙芝居では、世代を超えた交流もあり、認知症について楽しく学べる時間となりました。

「認知症を正しく理解し、自分にできることを考える」という意識が広がっていくと、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりの一助となります。



前にも参加したことがありますが、今回はもっと認知症のことが分かりました。他の小学校の友達にも、認知症を知る機会があればいいと思います。

インタビュー INTERVIEW

Q 活動を始めたきっかけは？

母の介護経験から認知症に関心を持つようになりました。平成29年、地元で認知症の方が行方不明になる出来事をきっかけに「自分にできることを」と考え、会を立ち上げました。

Q 取組の様子、今後の展望は？

現在は認知症カフェの開催や啓発活動、サポーター養成講座をおこなっています。地域との連携や多世代交流、特に子どもたちとのふれあいを大切にしています。今後はメンバーが専門性を高め、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを進めていきたいと思っています。



認知症サポートリーダー富山会 メンバー

見守り

「我がごとで考える」自然な見守り活動

■ チームひまわり

町内会から自然に生まれたチームオレンジ

チーム立ち上げの経緯

この地区では日頃から住民同士の声かけや見守りが自然におこなわれていました。一人の認知症の人が「住み慣れた自宅で暮らしたい」という思いを持っていたことから、地域全体で何ができるかを考え、チームオレンジが始まりました。

活動内容

近所のサポーターが定期的に訪問し、本人に声をかけます。困りごとを聞いた場合は、コミュニティハウスで町内会長、民生委員、家族、介護サービス事業所、サポーター、地域包括支援センター等が集まり、情報共

有や解決策を話し合います。支援者が本人の思いを代弁することで、その人らしい暮らしが地域で叶えられることを大切にしています。

また、年に一度は他のチームオレンジとの交流会にも参加し、そこでの学びをもとに活動に工夫を取り入れています。

活動の成果

介護サービス事業所とも協力しながら、地域が一体となって見守ることができている姿は、まさにチームオレンジの理想的な形と言えます。



地域住民、サポーターが訪問し、声をかけている様子



メンバー間で活発に意見交換や情報共有がおこなわれる

インタビュー INTERVIEW

Q 見守り活動で大変だったことはありますか？

最初はどうか関わればよいか分かりませんでしたが、『本人の思いを大切に』と原点に立ち返り、どんな風に暮らしたいかをみんなで考えました。できることは本人が続け、できない部分は周囲が支えることに決まり、顔なじみのサポーターが見守りを続けています。必要に応じてケアマネジャーやヘルパーとも連絡を取り合っています。

Q 今後チームオレンジに取り組む人に一言

認知症は誰でもなる可能性があるのだから、自分ごととして考えることがとても大切です。自分が認知症になったときに困らない地域であれば安心です。見守りは難しいこともありますが、つながりがあることで災害時にも強みになります。まずは、つながりをつくっていきましょう。



コミュニティハウスに集うチームメンバー

得意を活かした社会参加

■ シャインWすの

「お茶会」がつなく笑顔と生きがい

活動の経緯

きっかけとなったのは、地域に暮らす一人の女性の長年の茶道経験でした。物忘れが増えてきた今も、茶道の技は健在で、その力を地域で活かし、つながりを広げる機会を作ろうと企画されたのが「お茶会」です。

活動の内容

現在、このお茶会は二か月に一度、グループホームで開かれています。当日は施設利用者や職員、ケアマネジャー、地域のサポーターなど約30名が参加。女性が目の前でお点前を披露し、参加者はお茶を味わい

ながら談笑しました。利用者も、笑顔で会話を交わし、和やかな時間となりました。

活動の成果

「皆さんに喜んでいただけるのが励み。これからも続けていきたい」と女性が語るように、この活動は本人の生きがいとなるだけでなく、地域の事業所や家族、サポーターとの連携によって継続的に実施されています。その人の力や経験を活かす場は、社会参加につながり、物忘れが増えてきても、いきいき暮らせることを教えてくれます。



和気あいあいとした雰囲気の中で開かれるお茶会の様子



大好きなお茶について楽しそうに語る女性

インタビュー INTERVIEW



● ホーム長

施設利用者にはお茶を好む方が多く、お茶会は皆さんが楽しみにしている行事の一つとなっています。普段はそれぞれの居室で過ごす利用者も、この日は大勢が一堂に集まり、交流の場が生まれます。いつもは控えめな方が、自発的に乾杯の挨拶やお礼の言葉を口にされることもあり、会場は終始笑顔と笑い声に包まれます。心温まるひとときを提供いただいていることに、とても感謝しています。



● ケアマネージャー

お茶会を通じて、ご本人の認知症予防につながるだけでなく、長年大切にされてきた「お茶」という生きがいを披露する場があることは大変意義深いことです。さらに、その活動を支えてくれる施設の存在にも感謝の声が寄せられています。地域に根差しながら社会貢献を続け、自分の居場所を見いだしている姿は、まさに素晴らしい取り組みといえるのではないのでしょうか。

地域包括支援センターとの連携

■ 株式会社ちゅうぎんフィナンシャルグループ

金融機関が担う、地域と認知症支援の架け橋

地域包括支援センターとの連携について

「通帳を紛失してしまう」「手続きができない」など高齢のお客様が困っているときには、地域包括支援センターを紹介したり、銀行から直接相談することもあります。こうした連携により早期対応が可能となり、解決策をとともに考えられるようになりました。さらに、各支店にはセンターのパンフレットを設置し、高齢者だけでなく家族世代にも相談先をお知らせしています。

企業としての取り組み内容

入社研修の一環で「認知症サポーター養成講座」を実施し、現在762名が各部署で活動中です。講座では「驚かせない・急がせない・自尊心を傷つけない」

という心得を学び、顧客の話をよく聴き共感する姿勢を重視しています。受講者は若い世代が多く、「初めて認知症について知った」「対応の工夫を学べた」との声が寄せられています。

今後の展望、まとめ

認知症は他人事ではありません。地域で安心して暮らすには、多くの人々が正しい理解を持つことが大切です。当行はサポーターをさらに増やし、高齢のお客様が認知症になっても安心して利用できる金融機関を目指します。今後も地域と連携し、認知症の方の暮らしを支える取り組みを続けていきます。



部署間で連携した取り組みと情報共有がおこなわれる



店舗には地域包括支援センターのパンフレットを設置

岡山市 × 中国銀行の包括連携

住み慣れた地域で安心して暮らせる健康・福祉のまちづくりを推進

- 【主な取組内容】
- 認知症に関する相談や情報を地域包括支援センターと共有
 - 銀行担当者と地域包括支援センターが座談会を開催
 - 行員が認知症について学ぶ機会を設ける
(認知症サポーター養成講座の開催)
 - 中国銀行が高齢者・子どもの見守りネットワークに参加

- 【期待されること】
- 円滑に相談し合える関係性の構築により、現場レベルでの相談体制を構築
 - 認知症の疑いがあるお客様への権利擁護・財産保護を実現

支え合いのまちへ、あなたの一歩を。

認知症サポーター養成講座のご案内

受講料
無料

認知症サポーターはなにか特別なことをする人ではありません。
認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者になって
もらうものです。そして、自分のできる範囲で活動につながることを期待
されています。

講座内容

講座時間：原則 **90分**

- 認知症とは？ ● 本人・家族の思いとは？
- 認知症本人・家族との接し方
- 認知症サポーターの活動など



受講修了者へは認知症
サポーターカードをお渡
しています。

対象者

岡山市に在住・在勤・在学の方

開催条件

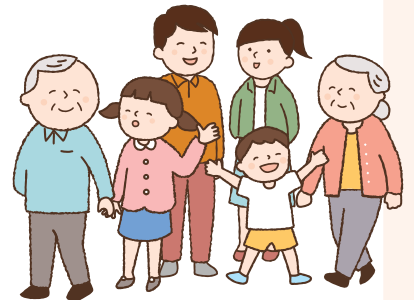
- 10名以上の参加 ● 会場の確保ができる
- 90分の時間がとれる（平日の午前9時から午後5時の時間帯）

申込方法

申込書をダウンロードし、申込先へ送付（開催希望の一か月前までに）

申込先

岡山市ふれあい公社地域包括支援課
電話:086-274-5136
e-mail:sapokuma@mx.okayama-fureai.or.jp



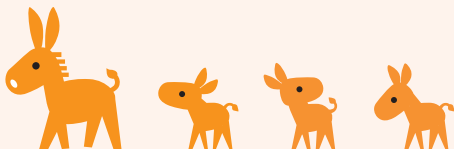
お問い合わせ

岡山市
保健福祉局高齢福祉部高齢者福祉課

〒700-8546 岡山市北区鹿田町一丁目1番1号
TEL:086-803-1230 FAX:086-803-1754

公益財団法人岡山市ふれあい公社
福祉部地域包括支援課

〒702-8002 岡山市中区桑野715-2
TEL:086-274-5136 FAX:086-274-5137



岡山市 チームオレンジ

